

# 全学共通教育における DRI

高橋 尚志 (大学教育基盤センター長)

2018年(平成30年)より、香川大学は全学的な教育改革に踏み切った。創造工学部の創設に象徴されるこの改革は、DRI教育をキーワードにするものである。本学の言うDRIとは、D: Design thinking (デザイン思考)、R: Risk management (リスクマネジメント)、I: Informatics (インフォマティクス)を意味する。創造工学部はまさしくそのDRI教育を推進するべくインフォマティクスの基礎の上にデザイン思考能力とリスクマネジメント能力を備えた人材、新たな価値を創造することのできる人材の養成を目指している学部である。何故にそのような発想が生まれたかと言えば、学長自らが語るように、「これからの時代を生き抜く力を備えた人材」、「これからの時代を真に支え、リードできる人材」(筧、2019)を育てることが将来に向けて必要であるからだ。それを実現するのが本学の提唱するDRI教育だ、ということである。しかし、これは一人創造工学部を卒業する学生に限ったことでは無いのは明かで、まさしく全ての本学学生が身につけておいて欲しいところである。そこで、創造工学部のみならず、全学的にもDRI教育の波及を行い、本学学生は卒業時にはDRI教育の基本は身につけておいてもらいたい、そのための施策を種々考えよ、というお題が教育戦略室を経て大学教育基盤センターにもたらされた。

大学教育基盤センターは、全学的な教育改革とほぼ時を同じくして教育改革に取り組んだ。その改革は組織改編も含む大がかりなものであり、詳細は香川大学教育研究<sup>1)</sup>の第13巻および第14巻をご覧いただきたいが、簡潔に言うならば共通教育の改革の基本は共通教育スタンダード<sup>2)</sup>の実質化でありその徹底である。大学全体のディプロマポリシーに対応した共通教育のポリシーを、本学では香川大学共通教育スタンダードと呼んでおり、それらに対応した授業科目群を整備して内容の充実を図ってきていたところである。そこへDRI教育の全学波及を、ということであった。私たちは急ぎ大学全体にとってDRI教育はどういうものであるのかその性格を吟味し定義づけする一方、共通教育スタンダードとそこで展開する科目群との共通性と差異を分析し、とりわけ主題科目群で目指す課題発見・課題解決能力の育成とは親和性の高いものがあることを確認した。共通教育スタンダードの徹底を目指す取り組みは、DRI教育を推進することにもつながり、特に主題Bなどの改革を進める行き先は、本学がDと言っている部分に他ならないだろう。この点を押さえ、引き続き主題科目群の改革改善を行っているところである。詳細については、この後にある三宅論文(三宅、2020)を是非ご覧いただきたい。

Dに加えRとIに期待される役割の明確化も行いつつ、さらに効果的なFDの検討を含める形で、大学教育基盤センターの組織整備を進め、センター内に創造教育推進部門を立

ち上げたのは既に報告の通り（石井、2019）である。その部門を中心に、DRI 教育の全学波及・全学展開のための施策を検討し、一部実施に移した。最もベースになる部分では、e-Learning 科目として提供している全学生が学ぶ主題 C－基礎科目に、本学の目指す大学像や学生教育等の中に DRI 教育のエッセンスの説明を加え、さらに主題 B に「はじめて学ぶ DRI」を開講した。この主題科目については後の小坂論文（小坂、2020）で報告している。

I に関連して、本学は今回大きな改革を行った。全国的に数理・データサイエンス・AI 教育を推進することが求められており、それが理系の特定の学部学科等にとどまらず全学生を対象とすることが柱となっている。本学では、DRI 教育の推進と全学波及を目指しているということは上述の通りであるが、そのうちの I についてはこのように全国的な教育政策も背景にあるので、限られた資源を活かしつつ統一的に教育改革として取り組みカリキュラムに溶け込ませることを目指した。後にある林論文（林、2020）で背景から目指すべき方向まで語られているが、中でも特に新たに開講する「情報リテラシー B」では、数理・データサイエンス・AI の基本を学び I 教育の基盤部分を形成することを目指している。R については既存の防災関連のネクストプログラムである防災士養成プログラムを軸にしつつ、より幅広く R を捉え直し、リスクマネジメント・レジリエンス教育として強化を図っている。後の井面論文（井面・西本、2020）をご覧ください。

以上、本学での DRI 教育の全学波及の取り組みを見てきたが、それらはあくまで初歩的なベースの部分である。では、より本格的な学びはどう提供するのが次なる課題だが、昨年の報告にもあるようにネクストプログラムの一つとして「DRI イノベーター養成プログラム」を立ち上げ（西本、2019）、自らの専門と DRI 教育を結びつけて学ぶことを可能とすることとした。現在このネクストプログラムの本格実施を目前に控え準備を行っているところであり、後ろにある西本論文（西本、2020）に詳細をまとめているのでご覧ください。

様々な施策を打つ中で、「DRI 教育を！とのかけ声が自分とは関係の無い遠くの方から聞こえるようだけどそれ何なの？」とか、「こんなに沢山のことを自分たちだけでやんなきゃならないのか？」といった疑問形で内外から心配の声などが聞こえてくる。よくよく話をすると理解は得られるのだが、そこまではなかなか行かない。DRI 教育の全学波及・推進は、共通教育スタンダードの実質化につながるものがまだまだ広く理解されていないからだろう。そういった中、DRI 教育とはそもそもどういうものかという教育戦略室企画の全教員対象の FD が各学部の教授会の機会を利用して実施された。それらの FD に対して、大学全体の FD のとりまとめの役割も担うという立場から当センターの能力開発部がサポートを行った。この取り組みについては、他の FD 全般についてもあわせて石井論文（石井、2020）で詳細に記述されているのでご覧ください。

本特集では全学共通教育において DRI とは何かを明らかにし、全国的な課題にも応えながら大学教育基盤センターが進める教育改革・改善を、DRI をキーワードに語ることを試

みた。国立大学法人である本学は、第4期中期目標期間に向け今後内部質保証の充実を図ることを進める必要があるが、主題科目群や情報リテラシー科目群に関してはDRI教育が質保証の一つの指標となろう。一方学問基礎科目群にはまだ手を入れることができていないが、第4期に向け議論を始めたところである。今後も着実に歩みを進めていきたいところであるが、それには何をおいても全教職員の協力無しには何事も始まらない。最後に、関係諸氏のご尽力に御礼申し上げますとともに、教職員の皆さんへのご協力をお願いして、本稿を閉じる。

## 注

- 1) 『香川大学教育研究』の各号は次のURLより香川大学リポジトリにアクセスすることができる。<https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/teachers/about/document/research/>
- 2) 香川大学大学教育基盤センターの次のページに共通教育スタンダードと対応する科目群等の一覧表がある。<https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/teachers/reform/table/>

## 参考文献

- 林敏浩（2020）「全学共通教育における数理・データサイエンス」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第17号、21-26頁。
- 井面仁志・西本佳代（2020）「全学共通教育におけるリスクマネジメント・レジリエンス」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第17号、15-20頁。
- 石井知彦（2019）「全学共通教育の平成31年度実施に向けた研修会（FD）報告 第1部2. 創造教育推進部門の設置とその役割」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第16号、66-67頁。
- 石井知彦（2020）「DRI能力を育成するためのFDプログラム」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第17号、43-48頁。
- 寛善行（2019）「全学共通教育の平成31年度実施に向けた研修会（FD）報告 第1部1. DRIを香川大学の教育の柱に！」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第16号、66頁。
- 小坂有資（2020）「「はじめて学ぶDRI」及び課題発見・解決型モデル授業」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第17号、35-41頁。
- 三宅岳史（2020）「全学共通教育におけるデザイン思考」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第17号、5-13頁。
- 西本佳代（2019）「DRIイノベーター養成プログラムについて」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第16号、55-63頁。
- 西本佳代（2020）「DRIイノベーター養成プログラム本格実施」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第17号、27-34頁。